

岐阜米穀(株) メールマガジン

今回のテーマは

「中国の肥料禁輸 肥料の国際価格が著しく上昇した本当の原因」

肥料の価格高騰が続いています。日本はリン安の9割を中国に依存しますが、中国は自国への供給を優先する為に輸出規制を行っています。ウクライナ危機での値上がり追い打ちをかけていて、今後の調達の困難さを物語っているようです。今後の肥料調達にロシア産も同じ考え方で影響が拡大させているのです。中国の自国産への優先は、国際的な不足による値上がりを加速させているのです。

国内の肥料資源を有効活用して海外依存を減らせるのか？

昨年9月に中国政府が同国の科学肥料メーカーなどに対して「化学肥料の供給保障、価格を安定させる事業に関する通知」を出し、自国向けの販売を優先的に支援すると発表した。化学肥料の輸入業者に対しては、輸入量をさらに拡大するよう要請。中国政府が肥料を食料安全保障に欠かせない「特殊商品」として位置付け、戦略として自国を最優先したことが背景にあるのです。

韓国の国際貿易通商研究院がまとめた報告書によると、肥料の輸出量が世界1位のロシア、2位の中国はともに昨年秋から輸出規制を開始したのです。ロシアによるウクライナ侵攻が拍車をかけ、ウクライナ、キルギス、ベトナムなども相次いで肥料の輸出規制を始めざるをえなくなりました。

規制は年末まで続く見通しで、日本の肥料業者からは「秋肥どころか、来年以降も大問題だ」と懸念する声が上がっていますが、マスコミは知らないふりで記事にならないのです。

中国は昨年2月の春肥以降、自国向けに肥料を優先供給するよう肥料メーカーなどに対し、計10回もの通知を出している。今年2月には春肥の自国供給を優先するよう念押しした。3月には化学肥料の品質を高め、自国の農家に安定供給できるようメーカーに態勢の整備を求めた。さらに肥料資源を確保するため、前年実績に基づいてリン鉱石などを採取するよう、呼びかけた。

この結果、中国の1～5月の世界への肥料輸出量は、前年同期と比べて4割減の757万トンとなった。うち尿素は54万トンと7割減、リン安は110万トンと半減した。以前のよう、日本が中国から安定的に肥料を輸入できる可能性は極めて低くなってしまいました。

日本は、化学肥料の原料となる尿素（窒素）、リン安、塩化カリのほぼ全量を輸入に頼っている。中でも中国からは窒素肥料となる尿素的37%、リン安の90%を輸入しています。中国の輸出規制が農業全体に与える影響は大きく、中国は輸出国としての責任を果たさず、逆手に取ってくるのが予想されます。

肥料価格の高騰を受け、農水省は2021年度補正予算で45億円を計上し「肥料コスト低減体系緊急転換事業」を実施。慣行の施肥体系を見直し、土壌診断や肥料コスト低減の取り組みを支援する。化学肥料の削減は、「みどりの食料システム戦略」の目標達成にも通じます。

下水処理の過程で発生するリン資源や堆肥などもフル活用し、海外依存からの脱却を目指していますが、そう簡単なことでは無さそうです。農業の三重苦が拡大していきそうです。いきなりの有機農業の振興が3年程前から始まり、掛け声だけ進んでいる中で有機農産物の認証は、海外からの日本への輸入拡大圧力で亜熱帯の日本農業の事情を無視した形で導入されてしまった経緯があるのです。

岐阜米穀は子会社であるアグリツーリズムで、地区で唯一の農業法人でソーラーシェアリングを進めている中で、糠や穀物殻の堆肥化を始めました。

～～新商品のご紹介～～ スーパー玄米「挑」が登場～～～～～～～～

◇スーパー玄米「挑」は食べてびっくり。炊飯器で玄米赤飯ができます。

つまり、もち米の玄米です。グレイン加工しており炊飯器で炊けます。

試食会で「玄米おはぎは」は絶賛されました。

4595641702100 グレイン加工 スーパー玄米「挑」 1kg 本体価格 695円

グレイン加工スーパー玄米シリーズが3種類で登場。

■オートミール・もち麦などを、PB・ODMを認証工場での受託をしています。